

9月22日 “アンマー”

朝から気持ち悪く、食欲もわかず、お腹も壊していたので、朝ごはんを少し食べてから薬を飲んで午前中は大事を取って寝た。午後になって回復してきたのでコミュニティセンターに行ったら、ファイ・チャチャイがご飯を食べなさいと言うのでひとまず一人前は食べた。席に着くと、みんな僕の具合が悪いことを知っていて、「ギン ヤー マイ？」(=薬は飲んだか?)と言って体調を気遣ってくれた。ホームステイ先のお母さん(パドゥーム)がめちゃくちゃ甘くてドリアンの雑炊みたいなのを勧めてくれたので食べてみた。ドリアンの臭いがすごくて、いつもなら無理してでもどうにか旨味を見つけて食べきろうと思うのだが、今日ではできなかった。お母さんが「マイ アロイ？」(=おいしくないんだね?)と言ってドリアン雑炊を下げたときの表情が悲しくて、とても申し訳なくなった。パドゥームが自分の料理が悪かったのかも思ったかもしれない、と考えると申し訳なさ過ぎて居た堪れなくなった。冷たいものの飲み過ぎと食べ過ぎによる腹痛なのに・・・。

ご飯を食べてあとにテーブルの片づけなどを手伝うと2時前になっていた。ヒマだなあと学生三人で話し、サイクリングに行くことにした。今日は晴れていた所以景色も良く、風も吹いていたのでとても快適だった。道も平坦で急な坂など一つもない。沖縄ではところどころに急な坂が有って、30分も走ったらけっこう疲れる。しかしバンジャムルンのあたりは平坦なので、写真を撮るために立ち止まりながら2時間くらい走ってもそれほど疲れなかった。バンジャムルンを西に行くとゴムの木はもちろん、バナナ畑、トウモロコシ畑、ココナツ畑などが広がっていた。途中、道沿いで牛を飼っている家も有ってびっくりした。僕が知っている日本に有る農家は牛を道沿いでは飼っていないし、広い平野にいたり、牛舎に入っていたりするイメージだからだ。さらに、家の真前でトラックに音響機器(ライブとかで使う大きさのスピーカー4台ほど)を載せ、テレビを庭においてカラオケをしている家が有った。その家の人だけでやっているのだろうか、だとしたら近隣の住民は何か文句を言いに来ることはないのだろうか、などと考えた。そこで思いついたのが、もしかしたらその地域のみんなでカラオケをしている可能性も有るかもしれないということだ。それなら周りの住民からも文句が来ないし、それにスピーカー4台とカラオケの機材を一家だけで借りるのはキツイのじゃないか、とも思ったからだ。(結局、夜中の12時になっても響いていた・・・。)

1時間ほど走ると、一つの集落に着いた。そこには大きなお寺が有ったので入ってみた。お寺の名前は「ワット ブナー」と言うらしい。すると、お寺の前で井上が10パーツを見つけたが、拾わなかったので、僕が拾った。「神のおぼしめし」である(笑)。まあこの10パーツは自分の直接的利益以外のことに使おうかと思う。じゃないとバチが当たりそうだ。お寺には数人のお坊さんが勉強をしているようで、中には入ってはいけない感じがしたので入らなかった。お寺の中に有った本堂がブンさんのお家のものと似ているのが興味深かった。この集落をあるいている途中で、集落の人から「サヨナラ！」と言われた。ぼくは

観光客の乗るバスがぼくに手を振っていると手を振りながら「ばいばーい」と言ったりする。そんな感覚で「サヨナラ！」と言っているのだろう。それにしてもなぜ一目で「イーブン」(＝日本人)とわかるのかが謎だった。タイフェイスとは言われてもやはり着ているものや持ち物や振る舞い方が異邦人であり、かつ「日本的」なのだろう。そう考えると、「日本文化」や「日本人の振る舞い方」は「日本人」よりも「外国人」の方が詳しいのではないか。おそらく感覚的にわかるのかもしれない。と分析しながら、本当の理由は「僕らが日本語を話しているのが聞こえたから」だったら上の分析などすぐになし崩しになるのだが(笑)。でも、僕としては素顔だけ見ると日本人も中国人もタイ人も台湾人もわからない。後は服装や化粧だったり振る舞い方やジェスチャーの頻度・大小だったりだと思う。日本国内でも「沖縄人の顔は見てわかる」と言う人もいるが、それは「〇〇都・道・府・県人」の、いわゆる顔の濃い人をその人が無視しているからに過ぎないとも思う。また、「沖縄人の顔」に濃い顔を想定しているのも、いわゆる顔の薄い沖縄人を無視していると思う。そしてなぜ「〇〇人」という区別を設けるのか、その意図を不思議に思う。『ポストコロニアリズム』という本では、「敵」を作りだし「敵」と闘う(支配または抵抗)ために「〇〇人」という概念が作り出される、みたいなことを書いてあった。それもあるなあと思った。もちろん、「バンジャムルン人」という民族を想定して「バンジャムルン人」であることを誇りに思うことは良いと思う(他の「〇〇人」をいじめないかぎり)。でもその「〇〇人」という概念は同時に「内」と「外」を作り出してしまうので、「味方」と「敵」の対立に利用されることも有り得るだろう。なんてことを考えながらコミュニティ(なにかしらのグループ)に誇りを持つことについて考えてみた。

寺のある集落をぶらぶらと散策してからはいったん家に帰った。30分ほどとろろ芋チップスを食べながらのんびりした。その後、僕はふたたびサイクリングに行き、井上と浅山はコミュニティセンターに向かった。本日二度目のサイクリングでは一人なので犬にほえられ追いかけることが多く、今日でバンジャムルンの飼い犬が嫌いになった……。野良犬は無視していれば吠えてこないのだが、飼い犬は自分の家を守ろうと躍起になってひたすら吠えては追っかけてきて、こちらが立ち去る意思を表示しているにもかかわらず追いかけてくるのだ。今度からはホームステイ先のお父さんが貸してくれたエイのしっぽの鞭を持って出かけよう。だが叩いたら逆効果だろうか(怖)……。だが、今回犬に追いかけて必死でグリップを握ったおかげで、僕の乗る自転車のギアが正常(?)に変化可能ということを知った。正常(?)というのは、一応ギアチェンジができるのだが、グリップのゴムを一度外側にずらしてギアを回し、ギアを変え終わったところでグリップのゴムを内側に戻すというやり方だからだ。すこしコツがいるのが面白い。

サイクリングをして家に帰り、夕ご飯を食べた。朝と昼にあまり食べられなかったので夕ご飯はたくさん食べた。ピータンの唐辛子入り野菜炒めが、にんにくが効いていておいしかった。そのあとコミュニティセンターに行ってメールのチェックなどをして日記を書いた。